

～観光振興と職業体験による賑わい創出事業～

市民の台所として親しまれる商店街で、地域住民や観光客に、街の顔である「よさこい踊り」と「お店の仕事」を体験してもらいイベントを開催。「よさこいアンコール」は観光客に商店街の魅力を、「わくわくワークるんだ商店街」は子育て世代に商店街の存在価値を再認識してもらい、集客の増加につなげた。

所在地：高知県高知市帯屋町2丁目1-33
 TEL：088-873-1366 FAX：088-873-6641
 URL：<http://www.kochikc.co.jp/ohashidori/>
 組合員数：41名
 商店街の類型：広域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

よさこい踊りで有名な高知市の中心部、JR高知駅から1kmに位置する中心市街地西部エリアの広域型商店街。当商店街も含めた4つの商店街を合わせると延長約710mに及ぶ県下唯一のアーケード型商店街でもある。また、食品関連の業種が充実しており、古くから「高知市民の台所」として親しまれ繁栄してきた。近年、商店街で核店舗として役割を担ってきたスーパーが閉店したことに加え、近隣に大型商業施設やコンビニエンスストアが開店した影響で、利用客の流出が進んでいる。そこで、こうした状況を打開するため、観光客を誘引できる「よさこい踊り」と地域の子供たちが仕事体験ができるイベントを開催し、商店街の魅力並びに存在価値を再認識してもらい、賑いを呼び戻す取り組みをした。

実施した事業の概要

①よさこいアンコールの開催（平成26年8月18日～31日）

観光客や近隣のお客様に来街してもらえるように、よさこい踊りのイベントを商店街のアーケードで2週間に亘り開催した。47の参加チームによるよさこい鳴子踊りの披露と体験会を実施し、よさこい踊りの体験者全員に「体験認定証」を贈呈した。体験者数は、延べ約800名となり大盛況であった。さらに、高知市旅館ホテル協同組合等と連携し、観光で宿泊しているお客様に店舗で使用できる抽選券を配布。当商店街で取り扱っている特産の食品などを景品にして、「市民の台所」である商店街のPRをした。抽選会の参加数は692名となり、大変賑わいを見せた。



②「わくわくワークるんだ商店街」の実施（平成26年11月2日）

地元子供たちが会員店舗にて仕事の体験をするをイベントを開催。あらかじめ、市内外の小学校にチラシを2万部配布し参加を募った。HPでも募集をしたところ、定員200名を大きく超える応募があった。当日は210名が参加し、さかな屋（鰹のタタキ作り）、おもちゃ屋（ゴム動力模型飛行機作り）、八百屋（新鮮野菜販売）等の全28業種の仕事を実際に体験してもらった。

子供たちは、仕事体験後に支給された給料（るんだ通貨）を使って、指定の個店にて製造・販売している食品や特産品等の買い物をして経済の仕組みを学習した。



成果と成功の要因



「よさこいアンコール」については、商店街のアーケード内で華麗なパフォーマンスを披露。よさこい踊りの体験会が観光客に話題となり、集客の増加につながった。また、同時に開催した抽選会では景品として地元特産の食品を提供し、「市民の台所」をPRした相乗効果もあって賑いを創出することができた。

「わくわくワークるんだ商店街」は、開催前から取り組みについての問い合わせが多く、商店街の認知度向上に寄与した。職業体験した子供たちに商店街を身近に感じてもらうことができたほか、同伴した親世代にも当商店街で販売される食品の魅力がPRできたうえ、商店街の存在価値についても再認識してもらえた。

これは、商店街の青年部が中心となって、企画から準備・運営に至るまで機動的に取り組んだことに加え、地域観光組合や関係機関、地域の小学校などと広報面での連携を強化したことが成功の要因と推察される。

今後の取り組み

今回の事業の成功を踏まえ、地域観光機関との連携を強化して地域資源である「よさこい踊り」の体験型イベントを当商店街が主体となって継続して実施していく。また、「わくわくワークるんだ商店街」は、9年間継続して開催してきたことから、今後も青年部が主体となって実施していく。特に、企業や市内外の小学校との連携を強化して企画の拡充を図り、一過性ではなく、持続してお客様を呼び寄せる仕掛けづくりに取り組んでいく。